

氏名	たかはま ゆみこ 高濱 由美子
学位の種類	博士（医学）
学位記番号	甲第 1279 号
学位授与の日付	2022 年 3 月 17 日
学位授与の要件	学位規則第 4 条第 1 項該当
学位論文題目	乾癬における血清 IgA 値と腎障害の検討
指導教員	教授 多田 弥生（板橋・皮膚）
論文審査委員	主査 栗野 嘉弘 教授（溝口・皮膚科） 副査 寺脇 博之 教授（ちば・第三内科） 副査 田村 好古 講師（板橋・内科）

論文審査結果の要旨

主論文

「乾癬における血清 IgA 値と腎障害の検討」は、帝京医学雑誌に掲載予定の申請者を著者とする単著論文である。

乾癬は全身に紅斑、鱗屑を呈する皮膚慢性炎症性疾患であるが、近年、慢性腎機能障害との関連を示唆する臨床研究が複数報告されている。乾癬と IgA 腎症との関連を示した症例も報告されていた。しかし、乾癬患者における血清 IgA 値と尿所見、腎機能検査所見との関係性は詳細には解明されていなかった。

そこで著者らは、乾癬患者における血清 IgA 値が高値を示す症例の割合を検討し、さらに血清 I g A 値と尿所見、腎機能との関連性などについてレトロスペクティブに検討した。

対象とした乾癬患者 59 名のうち 13 名（22%）が、血清 IgA 濃度が基準値（84~438 mg/dL）以上、すなわち高値群に属していたことが示された。また、血清 I g A 値と乾癬皮疹の重症度、血清 C r e 値、血中 B U N 値、eGFR に有意な相関を認めなかったが、血清 I g A 高値群では、糖尿病の有病率が 53.8%と、IgA 基準値内群の 10.9%に比較して有意に高く、血清 H D L コレステロール低値の症例の割合も高く、さらには、尿蛋白の陽性率も 30.8%と、基準値内群の 7%に比較して、有意に高いことが示された。尿潜血の陽性率は有意差を認めなかった。血清 I g A 値高値群では、糖尿病の有病率が高かったため、IgA 高値群における尿蛋白陽性率の増加は、IgA 腎症ではなく糖尿病腎症を反映している可能性も想定された。

本研究の優れた点として、乾癬患者における血清 I g A 高値と糖尿病の有病率、尿所見、腎機能との関係性を明らかにした点があげられる。

限界としては、レトロスペクティブで症例数も限られた検討であったため、尿所見において定量評価（尿蛋白/クレアチニン比、尿沈渣評価）の検討ができなかったことや糖尿病の有無や治療薬で分けた十分な層別解析ができなかったことなどがあげられる。

患者数を増やし、尿沈渣なども検討することで多変量解析を行うことや、腎機能の推移に関しての前向き研究、治療薬の有無を含めて解析を行うことなどが、今後のさらなる研究発展のために期待される。

2021 年 12 月 22 日に行われた学位審査において申請者は当該領域の十分な知識と経験を有していることが確認された。

以上により、学位授与に値すると判断した。